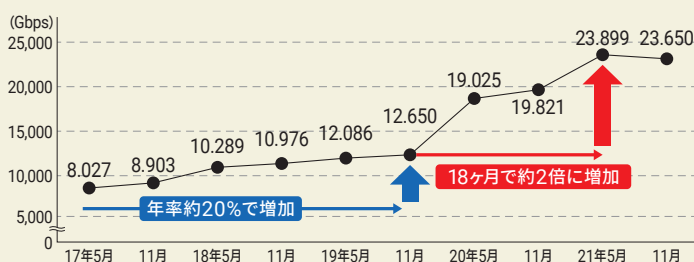


コロナ以前は年20% コロナ後は2年で200%!?

世の中で飛び交う情報量は増えるばかり
家庭でも通信端末の専用スペースはもはや標準装備です



インターネットトラフィックの推移 (出典 総務省(2022)「我が国のインターネットにおけるトラフィックの集計結果(2021年11月分)」)

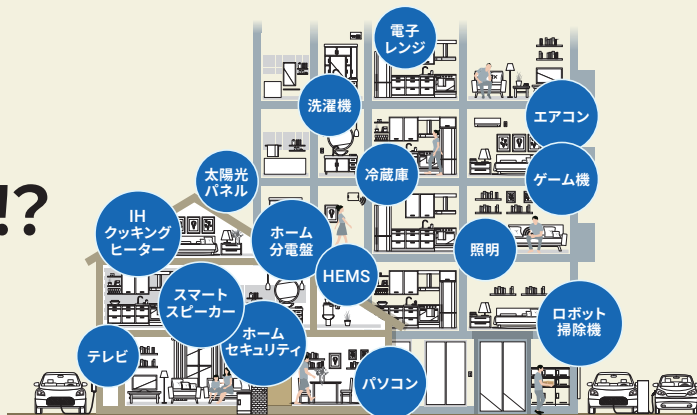
始まりは、90年代後半のインターネット普及からPCなど情報端末がオンライン化するにつれて、**収納のニーズも拡大**

インターネット普及の大きな転機は、1995年の「Widows95」の発売でした。その後、1999年頃よりADSL*サービスが提供開始。ブロードバンド元年と言われた2001年にはIP電話がサービス開始、さらに2004年にはJR 東日本の駅構内において「公衆無線LAN」が提供されるなど、日常生活やビジネスにおいて、インターネットが欠かせないものになっていきます。これを契機に、様々な規格で製品を開発する時代に突入しました。そこからハウスメーカーでは、各種通信関連機器の設置場所や配線隠しの準備が必要となる悩みが生まれ、当初は情報通信機器も搭載した専用の盤など機器に合わせた開発をしていました。しかし通信会社では、メーカーによる形状の違いや進化が早いことから機器形状に合わせた専用構造では汎用性に欠ける状況でした。カワムラは、多種多様な機器に対して、どうすれば汎用性を持たせ、搭載・配線・設置がしやすいキャビネットを開発することができるのかを模索。そこで、以下のニーズを満たす製品開発が始まりました。

【カワムラが解決しようとした課題】

- ・設置したタイミングから経年して、交換やメンテナンスが必要になる可能性が増大
- ・単純な故障だけでなく、通信規格や通信会社が増えたことで機器交換の可能性も正比例で増加
- ・Wi-Fiの登場によって無線化という大きな転機が訪れた
- ・弱電機器を中心に、多種多様なデバイスが混在することが常態化
- ・ハウスメーカーで「情報盤」が標準装備品になってきた

*電話回線のうち通常の電話が利用しない周波数帯帯を使用したデータ通信。

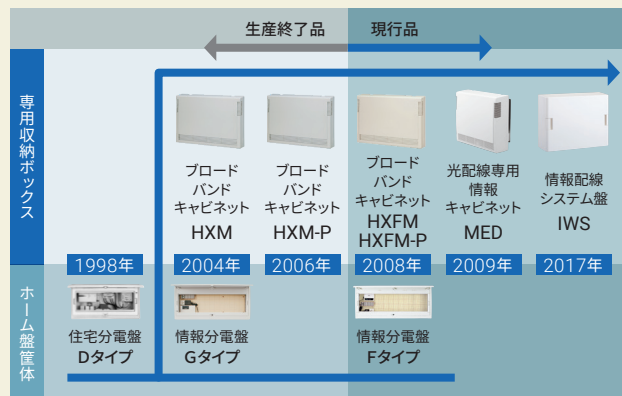


2020年2月に新型コロナウイルスが指定感染症となって以降、人々の生活は激変。在宅勤務の普及を含め自宅で過ごす時間が増えました。それに合わせるように、自宅でのインターネットを利用したデータ通信量は、2019年11月に比べ1年半後の2021年5月には約2倍となり、情報インフラの多回路化や高速化へのニーズも高まりました。

汎用性の高い製品をカワムラで開発。通信大手の推奨を得られたことが拡販の大きなきっかけ

開発においてまず取り組んだのは、複数の通信会社や情報機器メーカーとのディスカッションを積み重ねたことでした。他メーカーは自社製品の収納を前提とした開発であったため、多様なメーカーの製品が収納できる汎用性の高さがコンセプトに。そしてついに1990年代後半、初めて情報端末機器をまとめて収納した情報盤を発売。通信会社の“推奨品”として販売していた時期もあるほど、通信関係各社からの要望に応えた製品でした。その時代に開発した製品の中には今なお売れ続けているロングセラーも存在しています。

歴代情報盤



今後はますます機器が多様化。より大型で汎用性の高い専用収納ボックスが必要になっています

集合住宅も戸建もニーズが多様化

Wi-Fiはもはや標準となり

設置・住環境に合わせた選択肢が必要に

パソコンやスマートフォンの普及以外にも、家電製品のIoT化、定額制動画配信サービスなど、自宅におけるインターネットの普及を活用した製品やサービスは、次々と増え続けています。さらに住宅環境の変化も伴って、年を追うごとにニーズが多様化。

設置場所や情報端末機器の利用数も、各家庭によって大きく異なるようになってきました。そこで求められているのが、ニーズに合わせた専用収納ボックスです。カワムラでは、特徴的な2つのシリーズ展開をしています。

カワムラの「情報盤」2つの特徴

- ① 「3段パネル構造」と、バンド式など柔軟な取付方法の採用により、機器収納の最適化を実現。
- ② 空気の流れを考慮・解析することで、内部に熱がこもりにくく、安定した長期使用に耐える構造設計。

情報配線システム盤 IWS

多様な機器を効率よく収納する大容量

フレキシブルな収納性能で多様なニーズに対応



① 電波を妨げない素材・設計

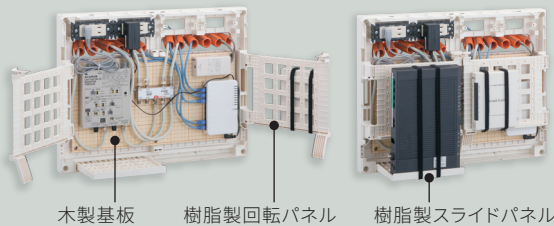
本体キャビネットや内部パネルは樹脂・木板で構成、Wi-Fi電波を妨げない設計。

② 可動式パネルでメンテナンス作業もラクラク

扉型の回転パネルとスライドパネルで、機器の取付や奥に配置された機器の入れ替えや交換作業も簡単。

③ ユーザーニーズに応えるカスタマイズ性

マジックバンドやマグネット用取付パネルによって、無線から光TV用まで、さまざまなメーカーや用途の機器を取付可能。より自由度の高い収納性を目指しました。



光配線専用情報キャビネット MED

コンパクト設計でスペースを有効活用

目指したのは、集合住宅でも配線を迷いにくい構造



① 3段構造 (半埋め込みタイプ) でコンパクトかつ必要な容量を確保

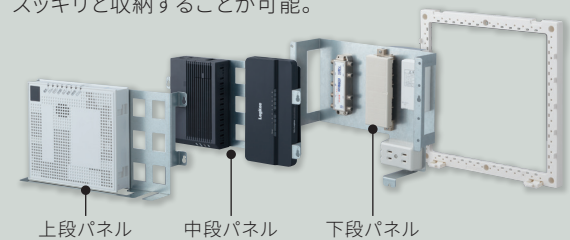
下段パネルにはTV分配器や光成端箱、中段パネルにはONUやHUB、上段パネルにはルータと、点検頻度などを想定した構造。

② 限られたスペースでも安心なサイズ

(縦・横・深さ) 320mm×340mm×110mmで設置場所を省スペース化することができ、アパートなど集合住宅にもオススメです。

③ 配線もスッキリ収納

設置機器の配線にも考慮した設計で、キャビネット内もスッキリと収納することが可能。



※壁への埋め込みが不要な2段式もラインナップ

住宅設備の今と未来がわかる「Kawamura住まいのあんしん」サイトはこちら
[カワムラ公式サイトからもご覧いただけます]

